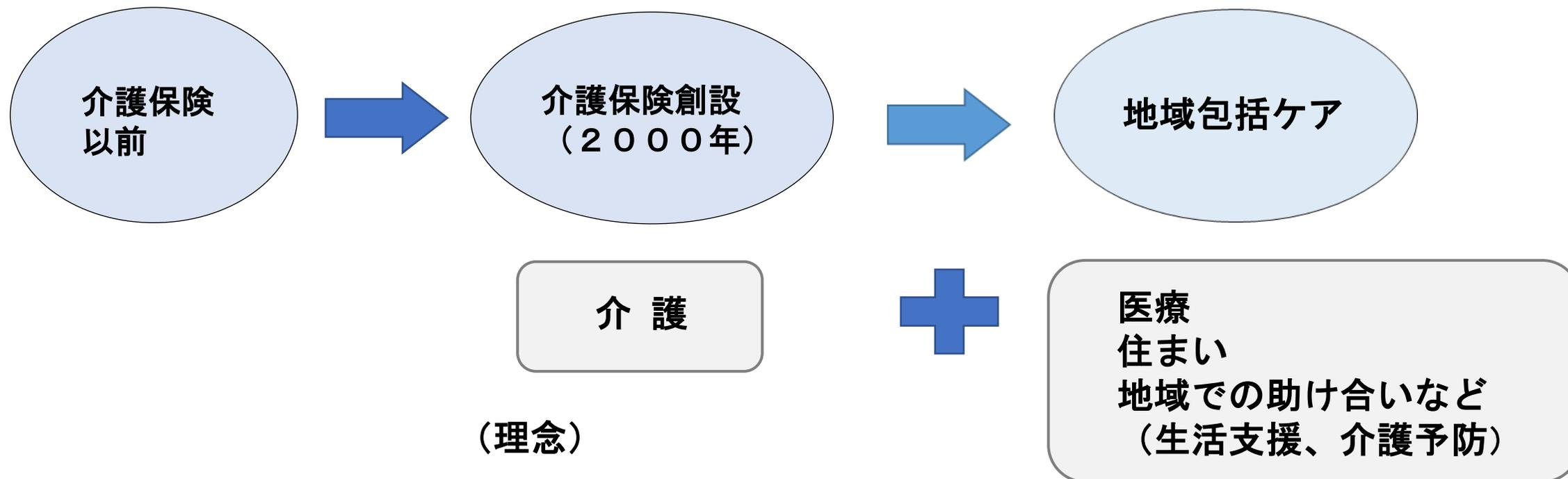


# 九州厚生局調査研究（話のポイント）

1. 高齢者の地域包括ケアとその深化
  - （1）自立支援を支える仕組みとしての地域包括ケアシステム
  - （2）地域包括ケアの深化
    - ① 地域づくり
      - \* 助け合い方式と民間企業等
      - \* 支援ツールとしての生活支援CO
    - ② 就労・社会参加の強化
2. 離島などの地域における支援の在り方
  - \* 多機能化、困りごと把握力、（+ 3の地域共生アプローチ）
3. 高齢者等の地域包括ケアと地域共生社会
  - \* 障害者、病気の人も同様。隙間、重複問題への対応
    - 分野横断的な地域づくりへ

# 介護保険から地域包括ケアへ



(理念)

## ① 自立支援

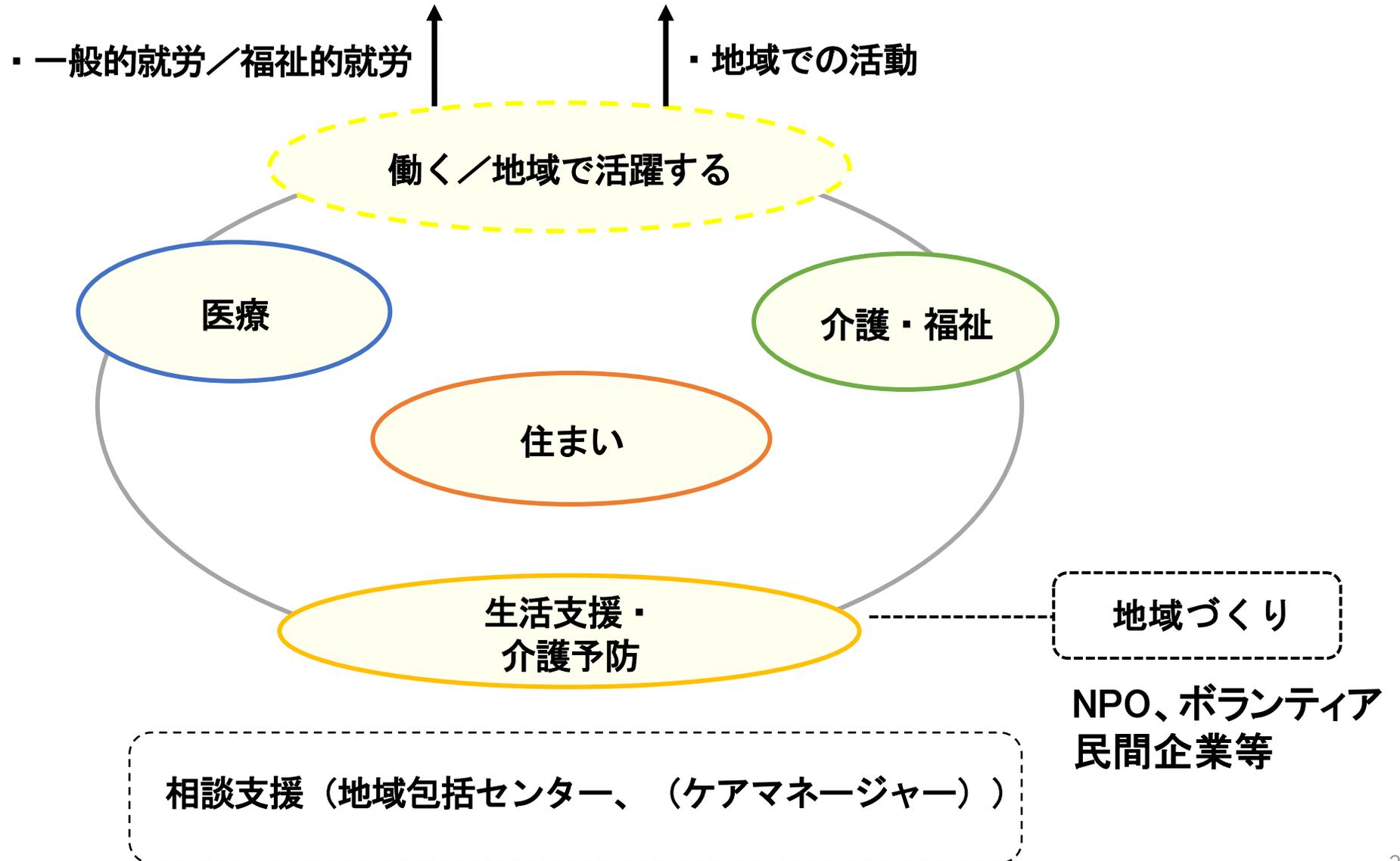
\* 自立とは？

- ➡ 「自己決定」して、サポートを受けながら自分らしく暮らす
- ・ どんな状態でも「自立」はある

② 利用者本位

③ 社会保険方式

# 地域包括ケアの構造（高齢者）



# 地域づくりの強化（民間企業との連携も含めて）

## ○ 地域の助け合い（NPO, ボランティアなど）

人材の確保が課題

企業の現役、退職者に期待

\* ワークライフバランス

\* 70歳までの高齢者雇用確保措置

## ○ 民間企業による市場サービス

\* できるだけそれまでの日常生活を継続

\* CSRとして ~ 本業として。助け合いとの協働も

(例) スーパー

(例) スローレジ

飲食店

金融機関

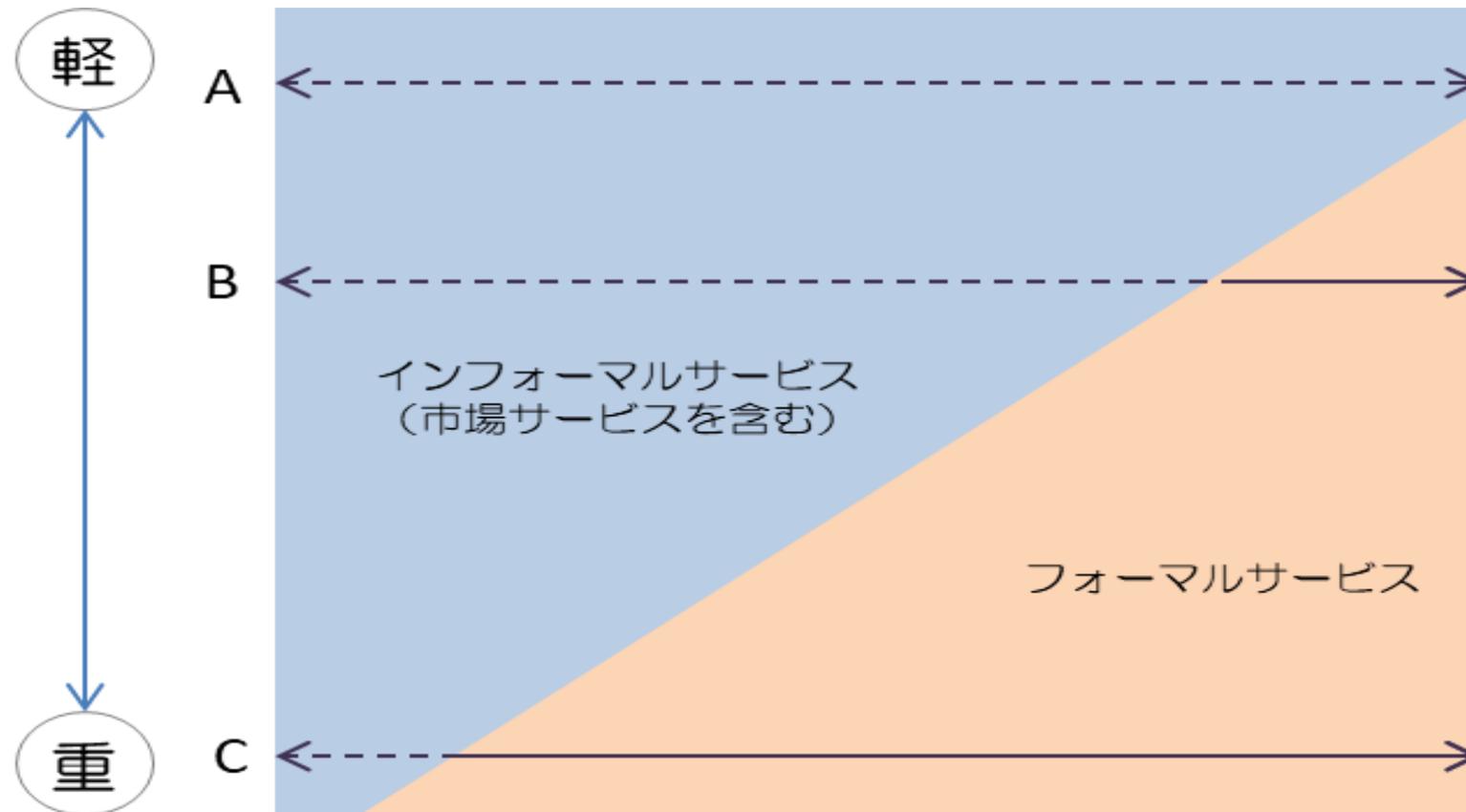
スーパー銭湯

移動支援

(例) 「チョイソコ」 (愛知県 豊明市)

など

# 本人の生活を支えるインフォーマルサービス（市場サービスを含む）の活用



# 就労、社会参加の支援の強化

---

- 若年性認知症のケース
  - ① 一般就労の支援（継続雇用の支援）  
（例）丹野智文さん、自動車販売会社ディーラー
  - ② 福祉的な就労（認知症デイサービスの活用など）  
（例）町田市のDAYS B L G（自動車販売店での洗車活動）
  - ③ 社会参加  
（例）当事者による相談支援
- 若年性認知症に限らず、認知症の人も、身体的介護を要する人も

# 離島などの過疎地域における生活支援について

## 1. 現状と課題

- 公的サービス、インフォーマルサービス（民間も含めて）双方とも、社会資源が少ない。

## 2. 対応の方向

### ① 多機能型サービスの推進

- \* 公的サービス            小規模多機能型    +    相談、地域づくり支援
- \* インフォーマル        商店 + 居場所など、地域共生型居場所等

### ② 地域の高齢者の困りごとの把握力の活用（→ 支援へつなげる）

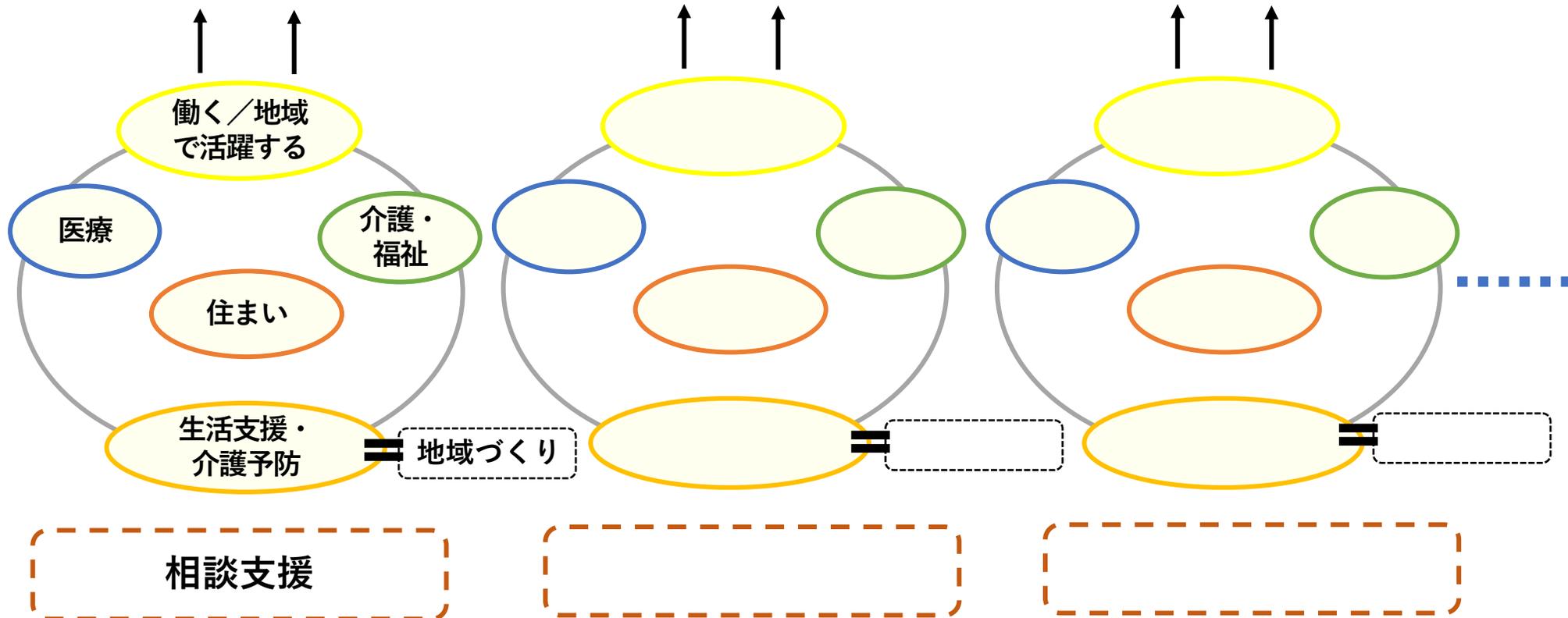
- \* 身近な人、商店などで把握可能    +    困りごと情報の共有化

# 様々な人に対しての地域包括ケア

高齢者

障害者

病気の方



# 地域共生社会

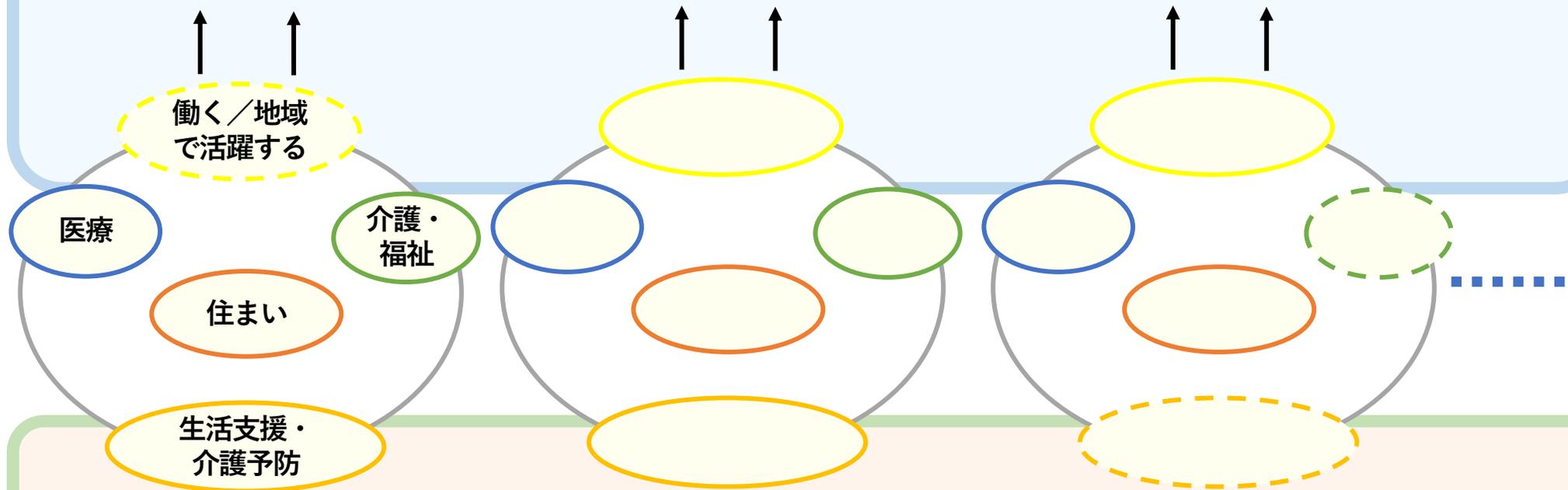
高齢の方

障害のある方

病気を持つ方

子育て中の方など

すべての人の就労・社会活動の場としての地域



すべての人の暮らしを支える基盤としての地域

相談支援